

(様式第4号)

神科・豊殿地域協議会 会議概要

1	審議会名	第3回 神科・豊殿地域協議会
2	日時	令和2年10月29日(木) 午前・ <u>後</u> 7時00分から午前・ <u>後</u> 8時30分まで
3	会場	豊殿地域自治センター(農村環境改善センター) 多目的ホール
4	委員出席者	青木茂友委員、浅川玲子委員、大久保孝子委員、近藤隆英委員、篠田正行委員、菅沼久美子委員、杉崎千代委員、高野亜矢子委員、竹内親吾委員、谷口昌平委員、中村幸博委員、橋詰和政委員、堀田芳子委員、堀善三郎委員、柳澤明德委員、柳澤正敏委員、柳澤幹夫委員、吉池正敏委員、渡邊久子委員、渡辺洋美委員 20人
5	市側出席者	羽毛田センター長、馬場地域振興政策幹、木角係長
6	公開・非公開等の別	<u>公開</u> ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和2年11月6日 作成部局課名 上田地域自治センター(豊殿地域自治センター)

協議事項等

- 開会(羽毛田センター長)
- あいさつ(中村会長)
- 協議事項
 - 「上田市の防災対策について」 講師：危機管理防災課 林係長
・「上田市の防災・減災への取組」について資料に沿って説明
 - 質疑応答
(委員) 例えば豪雨になった場合、どの程度のレベルで避難開始を行うのか。
(林係長) 上田市は自治会単位で警戒レベル3から避難に時間を要する高齢の方・障がいのある方の避難準備を促すための情報を伝え、レベル4で全員避難をお願いする。全員避難というのは、危険が迫っている地域の全員の皆さんが避難していただくこと。皆さんがハザードマップを見て確認して欲しいことは、自分の住む地域は土砂災害、浸水災害、どちらの対象地域になっているかということ。市からの情報はどの災害についてなのか確認をして判断するようにしてほしい。
(委員) 地域の防災資器材の関係で補助率3分の2、上限20万円の補助金を交付出来る。ということだが、補助対象は器材だけか。例えば備蓄品の食糧品は補助対象にならないか。
(林係長) 食糧品のような消耗品は補助対象外である。あくまでも自主防災組織の防災用資器材購入に要する経費に対してのみの補助である。
(委員) 防災に関する補助は上田市によるものだけか。
(林係長) その他に宝くじの収入により防災資器材の購入を上限200万円まで助成する県の事業がある。申請の流れとしては、市民参加協働推進課から自治会長が用紙をもらって、危機管理防災課へ申請。その後、上田地域振興局(上田地方事務所)で補助金交付のために細かな審査をする。例えば自主防災組織が活動している証明をするために予算書・規定等も必須書類であり、補助申請する器材によってはカタログはもちろん様々な書類が必要となる。もし必要であれば検討のうえ申請するように。問い合わせ先は危機管理防災課になる。なお、県の補助金も食糧品等消耗品は対象外である。
(委員) 上田市防災気象情報について、良いことと思うが、周知はどのようにしているのか。
(林係長) 出前講座や広報うえだ等、また防災訓練の広報誌を使って周知することが多い。
(委員) 要望であるが、1つの避難所への避難の方法から、分散避難とする方法も検討されているが、車による一時避難を考えたとき、駐車場の確保が必要となる。例えばJA・山洋電気、おふく等の駐車場使用について協定を結んでいただいで使えるようにしておかないと、いざというときに使えない。

(林係長) 他地域からの要望もあるので、参考にさせていただきたい。

(委員) 自主防災組織ですが、実際いざという時に機能する組織が稀だと思うが、参考になる自治会があったら教えてほしい。

(林係長) 地域によっては温度差があるが、積極的に取り組んでいる地区を挙げると、

- ・南部地区・・・毎年避難訓練・避難所運営訓練（ハグという机上で防災のカードゲームのようなもの）を行ったり、資器材についても購入を行っている。
- ・城下地区・・・まちづくり委員会全体がまとまっており、訓練も各自治会で行っている。また、災害時には各自治会お互い応援するという独自の協定を結んでいる。
- ・川西地区・・・連合会長さんが中心となり避難所運営マニュアルや冊子も作成。また、川西地区まちづくり協議会の予算で自治会用にハザードマップを独自に作成し、全戸配布している。
- ・丸子長瀬地区・・・避難所運営マニュアル・地区防災マップ及び地区防災計画を作成していて、それを上田市の地域防災計画に掲載している例もある。

地区防災マップ事業は、県の上田建設事務所で担当しているが、自治会または地区ごとに3回ほどの講習会と懇談会を通して、地元の方々と防災のことを考えていく。例えば、自治会の役員の方々と話し合いながら、地域のマップに自治会の危険箇所等情報を付箋で貼付し、それらを元に航空写真等活用し危険箇所の地区防災マップ、また、データまで作成する事業。今年は塩田地区の奈良尾自治会、去年は鈴子自治会が県に依頼して作成している。

以上、自治会で各々のやり方で防災について取り組んでいる。

(中村会長) 地域の防災マップ作成の際には参考にされたらよいと思う。

(委員) 先ほどの例にあったように、実際に活動している自治会の方に活動をお聴きしたい。そこは私たちにもできるとか、難しいとか話し合いができれば、具体的に進んでいくように感じる。「自助」「共助」と言われても、どう取り組んでよいのか分からないので、活動をお聞きすることで、今できるところがしぼられて、自分たちで考えていかれると思う。このような情報を広く自治連にも伝えてほしい。また、防災シリーズとして、市から発信してもらえたらと思う。

(林係長) 自治連へは機会をみて相談していきたい。昨年12月から今月10月号まで市の広報の防災コーナーに継続的な情報を提供してきたので、是非そのような情報も参考にさせていただきたい。また、地域からの生の声も今後の課題とさせていただきたい。

(委員) ハザードマップのなかで、市民の森は避難場所に指定されていない。わしば山荘・駐車場もあり、車による避難が非常に好都合に思われるが、現時点で活用は想定されていないのか。

(林係長) 現状では想定していない。ただ、車での避難を考えるなかで、今後検討させていただく。ただ、そこまで避難する際の危険性を考慮する必要はある。

(3) その他

本日は危機管理防災課から上田市の防災について説明いただいた。次回は以前皆さまから要望があった地元消防団12・13分団 2分団の方々の話しをお聴きするとのことでよろしいか→全員賛成

4 その他

(1) 五中の建設アンケート調査を次回地域協議会11/30日(月)までに回答いただきたい。

(2) 次回の会議日程 日時：11月30日(月)午後7:00から多目的ホールにて

5 閉会(青木副会長)

